

2015年6月30日

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の実施に関する調査研究協力者会議

札幌学院大学における障害のある学生支援の取組について

札幌学院大学 松川敏道

1. 札幌学院大学の概要

江別市文京台（JR 札幌駅から約15分）

5学部9学科・3研究科（募集停止している学部学科含む）

学生数 約2,700名（新入生 約530名）

2. 支援の状況

(1) 障害学生数 2015年4月30日現在

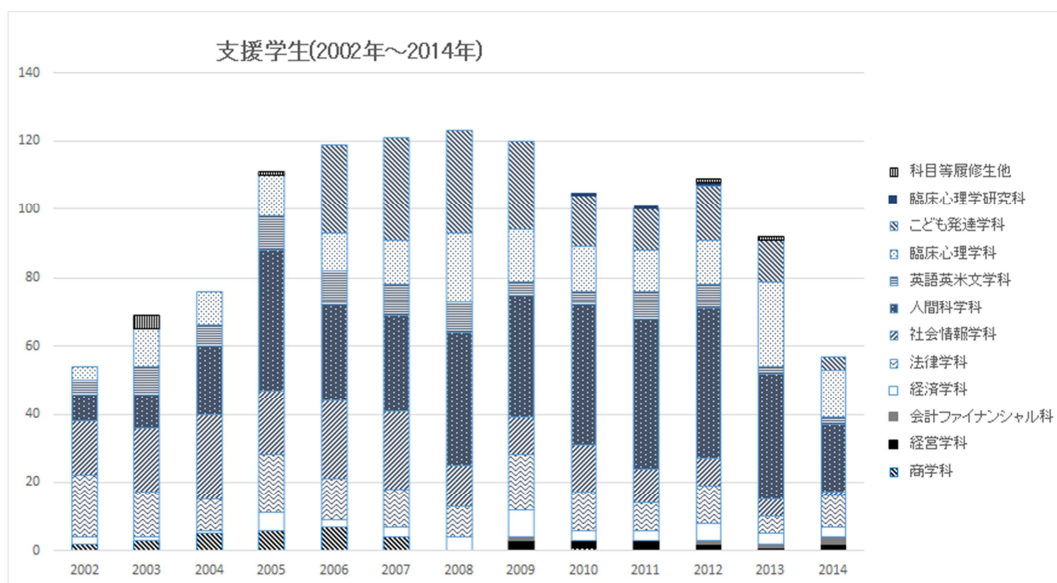
年度	障がいの状況						合計
	上下肢機能障がい			視覚障がい	聴覚障がい	その他	
	車いす使用	補助具使用	自力歩行				
1999	3	1	1		1		6
2000	4	1	0		1		6
2001	3	1	2		2		8
2002	4	0	1		2		7
2003	7	0	1		1		9
2004	10	0	2		3		15
2005	10	1	3	1	5	1	21
2006	8	1	2	2	6	5	24
2007	5	2	3	1	11	5	27
2008	2	2	1	1	11	9	26
2009	4	2	3	2	9	6	26
2010	5	1	2	1	8	4	21
2011	6	0	2	1	7	2	18
2012	6	0	1	1	8	11	27
2013	5	0	0	2	7	19	33
2014	5	1	1	4	8	17	36
2015	5	1	1	3	5	15	30

※入学時の申し出や入学後の健康調査回答によって把握し診断書等の提出がある人数

(2) 支援学生数 2015年4月30日現在

		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
商学部	商学科	7	4	0		1	0	0	0	0	0
経営学部	経営学科				3	2	3	2	1	2	2
	会計ファイナンシャル科				1	0	0	1	1	2	3
経済学部	経済学科	2	3	4	8	3	3	5	3	3	3
法学部	法律学科	12	11	9	16	11	8	11	5	9	8
社会情報学部	社会情報学科	23	23	12	11	14	10	8	5	1	1
人文学部	人間科学科	28	28	39	36	41	44	44	37	20	16
	英語英米文学科	10	9	9	4	4	8	7	2	2	3
	臨床心理学科	11	13	20	15	13	12	13	25	14	12
	こども発達学科	26	30	30	26	15	12	16	12	4	3
大学院	臨床心理学研究科					1	1	1	0	0	0
科目等履修生他	科目等履修生他							1	1	0	0
		119	121	123	120	105	101	109	92	57	51

※2006～2013年バリアフリー委員会在籍学生数、2014年度より支援学生登録数



(3) 支援の実施内容：合理的配慮の例

	支援内容の例	定期試験での配慮の例
視覚障がい	<input type="checkbox"/> 通学介助 <input type="checkbox"/> 個人ロッカーの貸出 <input type="checkbox"/> ポイントテイク(筆記代行) <input type="checkbox"/> 座席指定がある場合に前方の座席への指定 <input type="checkbox"/> 拡大鏡(ルーペ)や単眼鏡等の持ち込みの許可 <input type="checkbox"/> 復習のためのICレコーダーでの録音 <input type="checkbox"/> 配布資料等の拡大(字体、ポイント数指定) <input type="checkbox"/> 授業時間内に提出が困難な課題の事後提出	<input type="checkbox"/> 点字解答、文字解答 <input type="checkbox"/> 答案用紙の拡大 <input type="checkbox"/> 拡大鏡等の持参使用 <input type="checkbox"/> 窓側の明るい座席を指定
聴覚障がい	<input type="checkbox"/> 情報保障(ノートテイク・パソコンテイクなどテイク2名配置) <input type="checkbox"/> VTRやDVDなどの視覚教材提示の際の字幕 <input type="checkbox"/> 重要な連絡事項の板書またはプリント配布 <input type="checkbox"/> パワーポイントを使用した際の、スライドの配布 <input type="checkbox"/> 質問などをする場合の筆談 <input type="checkbox"/> 災害時にメールによる災害の発生の連絡及び非難連絡	<input type="checkbox"/> 注意事項等の文書による伝達 <input type="checkbox"/> 座席を前列に指定 <input type="checkbox"/> 補聴器又は人工内耳の装用
肢体不自由	<input type="checkbox"/> 通学介助 <input type="checkbox"/> 構内での駐車スペースの確保 <input type="checkbox"/> 個人ロッカーの貸出 <input type="checkbox"/> ポイントテイク(筆記代行) <input type="checkbox"/> 座席指定がある場合に前方の座席への指定 <input type="checkbox"/> 筆記が困難な場合のパソコンの持ち込みの許可 <input type="checkbox"/> 重要な連絡事項のプリント配布 <input type="checkbox"/> 授業時間内に提出が困難な課題の事後提出	<input type="checkbox"/> 試験室を別室に設定 <input type="checkbox"/> トイレに近い試験室での受験 <input type="checkbox"/> 車椅子、杖の持参使用 <input type="checkbox"/> 試験場への乗用車での入構 <input type="checkbox"/> 試験時間の延長(1.5倍)

	支援内容の例	定期試験での配慮の例
病弱	<input type="checkbox"/> 構内での駐車スペースの確保 <input type="checkbox"/> 座席指定がある場合に前方の座席への指定 <input type="checkbox"/> 医療器具の持ち込みの許可	<input type="checkbox"/> 試験室を別室に設定 <input type="checkbox"/> 杖の持参使用
発達障がい	<input type="checkbox"/> 座席指定がある場合に前方の座席への指定 <input type="checkbox"/> 復習のための IC レコーダーでの録音の許可 <input type="checkbox"/> 重要な連絡事項のプリント配布 <input type="checkbox"/> 指導目的以外での障がい内容の開示をしない <input type="checkbox"/> 自助グループ「雑談会」の開催	<input type="checkbox"/> 試験時間の延長(1.5 倍) <input type="checkbox"/> 答案用紙の拡大 <input type="checkbox"/> 注意事項等の文書による伝達

(4) 最近取り組んだ合理的配慮の例

◆エレベーター内のボタン表示拡大



遠隔情報保障

北星学園大学で音声聞いて文字起こし

本学の講義室

◆遠隔情報保障

遠隔情報保障技術を活用した情報保障試行の共同実施 (T-TAC Caption システムを利用した遠隔情報保障)

- ・2014 年度 3 科目 北星学園大学
- ・2015 年度 1 科目 筑波技術大学



(2014年度 3科目で実施)



◆定期試験時の口述筆記による配慮

◆視覚障がい学生の通学路にある横断歩道への音響付信号機の設置依頼（江別警察署）

(5) 2014 年度の支援の実施状況

①情報保障（ノートテイク・パソコンテイク）（謝金 1 時間 770 円、1 コマ 1,155 円）

被支援学生 5 名（聴覚障がいのある学生 8 名）

支援科目数及び支援学生数

	科目数	支援学生数
前期	59 科目 (1)	のべ週 108 名 (2 名) / 実員 33 名 (3 名)
夏期集中	1 科目	のべ 26 名 / 実員 8 名
秋期集中	0 科目	のべ 0 名 / 実員 0 名
後期	55 科目 (2)	のべ週 111 名 (4 名) / 実員 35 名 (4 名)

※いずれも（ ）の遠隔情報保障における数を含む。

前期 ・2 コマ続きでテイク 0 名

・週当たりのテイクコマ数 最大 7 コマ

後期 ・1 名のみ配置 2 科目

・週当たりのテイクコマ数 最大 6 コマ

年間最大担当総コマ数 206 コマ

(参考) テイクルールより

- ・1 コマ 2 名ずつ配置 (15 分間交替)
- ・2 コマ続きでテイクをしてはいけない
- ・履修している科目でテイクをしてはいけない
- ・週当たりのコマ数制限 (1 日 2 コマ以内)

授業のほか、入学式、オリエンテーション、オープンキャンパス等でも実施。

②ポイントテイク（筆記代行）（謝金 1 時間 770 円、1 コマ 1,155 円）

被支援学生 前期 4 名 後期 5 名

支援科目数及び支援学生数

	科目数	支援学生数
前期	7 科目	のべ週 7 名 (実員 7 名)
秋期集中	1 科目	のべ 6 名 (実員 3 名)
後期	17 科目	のべ週 21 名 (実員 9 名)

③通学・移動介助（謝金 片道 300 円）

被支援学生 前期 2 名 後期 1 名 冬期 2 名

支援回数及び支援学生数

	回数	支援学生数
前期	7回	のべ7名（実員7名）
後期	5回	のべ5名（実員25名）
冬期	9回	のべ14名（実員25名）

3. 相談支援体制

(1) 学生主体の支援体制(これまでの支援体制)：バリアフリー委員会

バリアフリー委員会 <http://www.sgu.ac.jp/bfc/>より

札幌学院大学バリアフリー委員会 共に考え、共に取り組み、共に進む！

札幌学院大学 バリアフリー委員会



札幌学院大学バリアフリー委員会は、重度難聴学生に対するノートテイクやパソコン要約筆記といった講義内容を保障する活動や、車椅子を使用している学生や上下肢が不自由な学生に対する各種介助などを行っています。さらに講習会、交流会やスポーツ大会の開催など様々な活動も行っていきます。

F館5階 507号室にバリアフリー委員会の部屋があります。バリアフリー委員会の活動に興味のある方は是非F507号室へお越しください。メールや掲示板への投稿も大歓迎です。

活動内容

ノートテイク
聴覚に障がいを持っている学生に対して、バリアフリー委員会で行っている講義支援の方法の一つです。書き込み速度に対して、通常話している話し言葉は非常に多いため、話したことを全て書き写すことはできません。話された内容をいかに効率よく、理解できるように書き込めるかがポイントになります。

パソコン通訳
パソコン要約筆記は専用のソフトを使用して入力することによって講義内容を伝えます。バリアフリー委員会では「パソコン通訳」という呼び方で通常呼んでいます。パソコン通訳は通訳者の入力速度が速いほど情報量が増えます。パソコンに余裕がある場合は、複数のパソコンを接続したうえで連携して通訳を行う事もできます。

筆記代行
手の不自由な学生が、板書が速い、あるいは多い講義に出ると、授業についていくことが難しくなります。そこで、代わりに板書をノートに写す支援がバリアフリー委員会で行っている筆記代行です。板書やOHPの内容を写すだけでなく、先生が話した重要なポイント等をメモすることもあります。

登下校時の介助

トップページ
 ▶ サイトマップ
 ▶ 委員会について
 ▶ 活動内容
 ▶ 活動報告カレンダー
 ▶ お知らせ
 ▶ トピックス
 ▶ 各種資料
 ▶ リンク集
 ▶ メール
 ▶ BFの会 (OG・OB会)






バリアフリー委員会の誕生 2001年 始まりは？

(教育の現場：現在進行形)
難聴の友だちが困っている！
何とかしたい！ どんな支援？
できることから始めよう！
(学生立ち上がる)

(大学)
必要な支援とは？
大学の支援体制、専門委員会か？…侃々諤々

**障がいを抱える学生と支援学生、教職員
共に考え、共に取り組む！(原点)**

(聴覚障がい学生の支援活動開始)
ノートテイクのやり方を勉強しよう！
テイクをやりながらスキルアップだ！

(関係する教職員)
学生と一緒にやりましょう！
パソコンを使えるのでは…
IPTalkを使おう！

パソコンテイクもよさそうだよ！
テキスト作って講習会をしよう！

●大学にバリアフリー委員会の設立を要求
(侃々諤々 議論は続く…)
待てない！ 学生とバリアフリー委員会を作ろう！

(大学)
素晴らしい！
予算を付けよう！

バリアフリー委員会学生組織

企画・実施・支援
学生リーダーと
各部長がコーディネーター！

バリアフリー委員会

- テイク統括部**：テイクの養成を目的とした講習会の開催やテイクの配属を行う。
- 学務部**：手帳勉強会や手帳合宿、「みんなでしゃべり場」を開催する。
- 広報部**：ホームページ更新、広報紙の発行、ポスター作成などの広報活動を行う。
- 交流部**：スポーツ交流会、歓迎会などの交流の企画を担う。
- 紹介部**：肢体不自由な学生の筆記代行や移動介助者を募集・配属する。
- CAR部**：アルミ缶800gを集めて思いすと交換する。

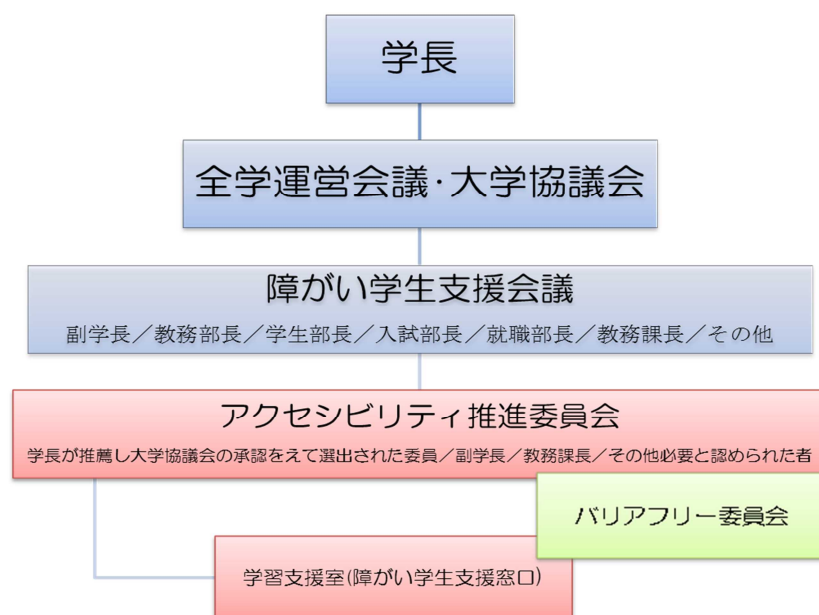
(教職員) 学生組織をサポート

各部会議：部長＋部員、不定期
 部長会議：リーダー・副リーダー（3年生）＆部長（1年生～3年生）
 全体会議（報告会）：月1回(休休み)、教職員も参加
 学生・教職員合同会議：新学期開始前（3月）
 (年度末の総括＋新リーダー・部長による次年度計画＆準備確認)

全体会議
(昼食を食べながら)

(2) 現在の相談支援体制

◆相談支援体制の全体像



◆障がい学生支援会議(2012年)

- ①目的：障がい学生に対して公正な教育を保障し、修学及び学生生活等に関する支援を推進することを目的とする。(会議規定第1条)
- ②次の事項について支援と協力を行う。
 - ・入学に関すること
 - ・修学に関すること
 - ・学生生活に関すること
 - ・就職に関すること
 - ・障がい学生支援に係わる予算に関すること
 - ・施設、設備の整備に関すること
 - ・その他

◆アクセシビリティ推進委員会(2014年)

- ①趣旨：障がいのある学生が、学生と教職員の協働の理念のもと、学生生活を送る際に適切な支援を受けられる体制づくりを推進するために、障がい学生支援の実施部門としてアクセシビリティ推進委員会を設置し、その円滑な運営を行うために必要な事項を定めるものとする。(委員会規定第1条)
- ②次の事項を審議する。
 - ・障がい学生のための支援内容と制度に関する事項
 - ・障がい学生のための設備等の整備に関する事項
 - ・障がい学生及び支援学生の要望に関する事項
 - ・その他第1条の目的を達成するために必要な事項

◆学習支援室(2008年)

【人員：学習支援係→専任職員2名、パート職員2名（午前1、午後1）+TA・SA】

①学習支援室の運営

- ・なんでも相談コーナー
- ・TA・SAによる学習相談
- ・論述・作文、英語

②新入生の大学生活への円滑な移行支援

- ・入学前 SNS
- ・ピアサポーター

③障がい学生支援

- ・トータルな相談窓口
- ・支援学生配置業務
- ・メーリングリストによる情報共有と支援の運営 など



(3) 入学前面談の実施

(4) 学生支援の多様な試み

◆雑談会

発達障がいや精神的に困難のある学生たちの自助グループによる雑談会を開催。毎月1回木曜日16:30～よりG館5階会議室にて8回開催し、20名前後の学生が参加。(4月・5月・6月・7月・9月・10月・12月・1月に開催)

◆「発達障害の子どもをもつ母親の会」への参加

本学の発達障がい学生数名の保護者が参加している「発達障害をもつ母親の会」のランチ会にて修学状況等について保護者と情報交換を行う。(4月・7月・12月・1月・2月に参加)

◆障がい学生のためのロッカー設置

◆静かな学習空間の設置、運営

4. 支援者の募集及び養成(2014年度の実績)

(1) 説明会、講習会の開催

①新学期学年別ガイダンスでの支援者募集呼びかけ

②障がい支援者説明会

・2014年4月9日・11日・16日・18日 12:30～13:00/16:30～18:00

③テイク講習会

・前期 2014年4月22日・25日 16:30～18:00

・後期 2014年10月1日・3日 12:30～13:00(説明会)

・2014年10月10日～12月5日の毎週金曜日 16:30～18:00

・春休み 2015年2月16日～18日 10:00～12:00

・メンター練習会 2015年3月11(中止)・12・17日 10:00～12:00

・センスアップ講習会 2015年3月30日(月) 15:40～

④ポイントテイク講習会 2014年10月28日・11月4日

⑤通学介助講習会

・車いす介助講習会 2014年5月20日

・冬道介助講習会 2014年11月26日 学外講師として卒業生を招聘

(2) 手話勉強会

4月11日(金)から12月12日(金)の18:30~開催し、2014年度は全21回開催した。

学外講師は2名、参加学生は20名程度。

5. 研修、啓発及び教職員への配慮依頼

(1) 教職員向け

①授業担当教員へ配慮依頼・支援学生募集の協力依頼

聴覚障がい配慮5名、視覚障がい配慮3名、肢体不自由配慮3名、学習障がい配慮1名

(2014年度)

②障がい学生支援パンフレット第1号「誰でもできる情報保障のコツ~一歩進んだサポートをするために」発行。全教員・非常勤講師に配布。

③FD研究会「本学における情報保障の現状を知る」2015年2月19日

(2) 学生向け

①オリエンテーション時に支援者募集の呼びかけ

②入学式でのプレゼン「札幌学院大学における障がい学生支援活動」

6. 就職支援

・『障がいのある学生のための進路セミナー』の開催

2014年10月4日

・『障がい学生のためのキャリアガイダンス(キャリア支援課主催)』2015年1月14日

・発達障がい学生を対象としたインターンシップの試み

7. その他

・北海道障がい学生支援ネットワークの設立

・「聴覚障がいのある受験生のためのガイドブック」作成中

8. 札幌学院大学の今後の課題

☞本学としての基本方針、ガイドブックの作成、学内の周知

☞支援学生の慢性的不足とスキルに関わる課題、学外連携の推進

☞生活介助に関わる課題

☞実習における発達障がい学生の支援体制・・・など

札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会
バリアフリー委員会

支援者を募集しています!

本学では、本学に在籍する障がいをもつ学生の大学生活支援を行っています。聴覚に障がいをもつ学生には授業支援として、ノートやパソコンを用いたテイク活動を行い、視覚に障がいをもつ学生や肢体不自由学生には、講義のポイントテイクや、通学・移動介助を行っています。支援活動を行うと、大学で定める謝金(1時間770円、17時以降1時間900円/通学片道300円)が支給されます。手話の勉強会や、テイク技術を学ぶための講習会、介助の講習会なども行います。技術を身につける機会がたくさんあるので安心ください。興味のある方は、ぜひ学習支援室(C館2階)までお越しください。

テイク活動とは?

聴覚に障がいをもつ学生のため、音声情報を文字に変えて提供すること。紙とペンを用いるノートテイク、パソコンを用いるパソコンテイクがある。

~ パソコンテイク ~

ポイントテイクとは?

ノートを自分でとることが困難な学生のため、板書や講義の要点を書き取ること。

通学・移動介助とは?

学校へ行く、教室移動することが一人で困難な学生のため、介助者として移動を手伝うこと。

支援活動を行っている先輩学生との交流会を予定しています。お昼ごはんを食べながら、ぜひ気軽に参加してください!

日時: 4月2日(木) 11:30~13:00
場所: G館8階ラウンジ

【問合せ先】
C館2階 学習支援室
Mail: shien@ins.sgu.ac.jp
※同時募集をしていますので、お気軽にお尋ねください!